

基地問題講演会2007を開催

額賀前防衛庁長官が講演しました

大和市基地対策協議会主催

厚木基地の存在に起因する問題の解決に向け、

さまざまな取り組みが続いている大和市基地対策協議会は2月4日、

額賀福志郎前防衛庁長官を講師に招き

「基地問題講演会2007」を保健福祉センターで開催しました。

当日は、400人以上のかたが訪れ、熱心に耳を傾けていました。

今号では、講演内容をお知らせするとともに、

会場で寄せられた質問や要望の一部、アンケート結果などを紹介します。

今、厚木基地は...？

最終報告に至るまでの経緯と

厚木基地の現状

戦後、厚木基地が米軍に使用され始めて60年余り、市民は米軍ジェット機による激甚な騒音にさらされてきました。NLP（夜間連続離着陸訓練）を含む騒音被害の解消は市民の切実な願いであり、大和市基地対策協議会と市は、国などに対し抜本的な解決を求め続けています。

昨年5月、日米両政府は、在日米軍再編協議における最終的な報告として、「再編実施のための日米のロードマップ」（抜粋参照）を発表しました。この中で、厚木基地から岩国飛行場への空母艦載機の移駐が示されたことにより、航空機騒音問題は負担軽減という局面を迎えようとしています。

「再編実施のための日米のロードマップ」（抜粋）

厚木飛行場から岩国飛行場への空母艦載機の移駐

- ・第5空母航空団の厚木飛行場から岩国飛行場への移駐は、F/A-18、EA-6B、E-2C及びC-2航空機から構成され、(1) 必要な施設が完成し、(2) 訓練空域及び岩国レーダー進入管制空域の調整が行われた後、2014年までに完了する。
- ・厚木飛行場から行われる継続的な米軍の運用の所要を考慮しつつ、厚木飛行場において、海上自衛隊EP-3、OP-3、UP-3飛行隊等の岩国飛行場からの移駐を受け入れるための必要な施設が整備される。
- ・恒常的な空母艦載機離着陸訓練施設について検討を行うための二国間の枠組みが設けられ、恒常的な施設を2009年7月又はその後のできるだけ早い時期に選定することを目標とする。

第1部 講演

第1部では、防衛庁長官として在日米軍再編協議の最終的な報告「再編実施のための日米のロードマップ」を取りまとめた額賀福志郎前防衛庁長官が、基地問題をテーマに講演しました。

1時間にわたった講演は、賀福志郎前防衛庁長官が、基地問題をテーマに講演しました。成6)年に北朝鮮の核開発疑惑から気づいた日本の安全保障の不備に始まり、自衛隊が生まれた経緯や憲法における位置づけとその役割、日本人の危機意識の問題、昨今のイラク派遣の撤回に至るまでの内実、そして米軍再編と厚木基地に関する問題など、国内の安全保障を巡るさまざまな内容に及びました。その講演内容をお伝えします。



額賀福志郎氏

衆議院議員（自由民主党）昭和19年茨城県生まれ。早稲田大学政治経済学部を卒業後、産経新聞記者、茨城県議会議員を経て、昭和58年に衆議院議員に初当選し、以来当選8回。その間、通産政務次官、内閣官房副長官、経済財政・IT担当大臣、党幹事長代理、党政務調査会長、党安全保障調査会長、防衛庁長官などを歴任。現在、党宇宙開発特別委員長を務める。



米軍再編の流れ

米軍再編は、2002（平成14）年ごろから始まり、再編が始まったきっかけは二つ。一つは、1989（平成元）年に冷戦時代の終結を迎えたことで、共産圏の国々に対する抑止力としての米軍を前方展開する必要がなくなったこと。そしてもう一つが、2001（平成13）年に起きた9・11テロ事件（アメリカ同時多発テロ事件）により、自国の防衛強化とテロ撲滅に力を入れる必要性が出てきたことです。

こうした米軍再編の流れとは別に、日本も世界の状況変化に合わせて、テロやゲリラなどの問題に備えなければなりません。そこで、日本の防衛と米国の防衛を改めて整理するため、ここ数年両国間で在日米軍再編について協議してきました。

19・11テロ事件（アメリカ同時多発テロ事件）…イスラム過激派によってハイジャックされた4機のジェット旅客機が、米国内の複数の地上施設に激突し、約3,000人の犠牲者を出したテロ事件

「再編実施のための日米のロードマップ」取りまとめに際して

昨年4月末、わたしは日米の最終合意を取りまとめるため、米国に乗り込み、アポイントも取らずラムズフェルド国防長官と会ってきました。それまで長官は、どのような要人と会っても30分以上会談しなかつたところを、わたしは3時間15分にわたり直談判してきました。そのかいがあつて昨年5月、2プラス2（日米安全保障協議委員会）で「再編実施のための日米のロードマップ」を取りまとめ



写真提供：共同通信社
会談終了後のラムズフェルド米国防長官（左）と額賀防衛庁長官（平成18年4月23日；ワシントン郊外、肩書きは当時）

ることができました。ここで、最も大事なところは「他国への抑止力を維持し、基地周辺住民の負担を軽減させること」でした。近年、技術の進歩により兵器の能力が上がっています。また、自衛隊と米軍との協力体制をさらに整えることで、防衛能力が高まります。こうしたことから、基地を減らしても抑止力は維持できるとしました。

負担の軽減については、厚木や横田、普天間のような市街地にある各基地の地元住民の負担を、全力で解消することを目的としています。その中で一番の焦点は、沖縄の負担軽減と厚木基地の空母艦載機を岩国に移駐させることでした。

2プラス2（日米安全保障協議委員会）…日米間の安全保障の分野における問題を協議する機関。日本側からは外務大臣と防衛庁長官、米国側からは国防長官と国防長官で構成されることから2プラス2と呼ばれる。

空母艦載機移駐で騒音が軽減

わたしの地元にも百里基地があるため、地域の実情や基地周辺の住民が多大な負担を強いられていることを十分理解しています。しかし、安全保障に関する問題は、地域だけでなく国全体で考えていかなければなりません。そのため、日本全体で基地の負担を分担する必要があります。厚木基地周辺の騒音を100とするなら、横田基地は30以下、岩国基地は20以下です。だからといって、移駐したために岩国の負担が今以上に増えないよう、沖合に滑走路を出すなどの態勢を整えていきます。負担が増えしまった地域には支援と援助をしながら、皆さんの理解が得られるよう、全力で取り組んでいきます。



岩国基地